

Course number		U-LAS60 10001 LJ17					
Course title (and course title in English)		統合科学：閉じた地球で生きる（地球環境とエネルギー） Interdisciplinary Sciences :Sustainable Living on the Earth as a Closed System (Earth Environment and Energy)			Instructor's name, job title, and department of affiliation		Graduate School of Science Professor,BABA MASA AKI Graduate School of Science Associate Professor,MAESATO MITSUHIKO Graduate School of Science Associate Professor,SHIBATA TOMOO Part-time Lecturer,MOCHIZUKI KANAE
Group	Interdisciplinary Sciences			Field(Classification)		Interdisciplinary Sciences	
Language of instruction	Japanese			Old group		Number of credits	2
Number of weekly time blocks	1	Class style	Lecture (Face-to-face course)		Year/semesters	2024・Second semester	
Days and periods	Fri.4		Target year	All students		Eligible students	For all majors
[Overview and purpose of the course]							
<p>地球環境問題の解決は、人類の近未来に関する喫緊の課題である。地球温暖化、地球汚染、動植物の生態系の悪化などが挙げられるが、そのほとんどが人類がエネルギーを得るために引き起こした問題であり、特に若い世代が文系・理系の垣根を超えて、その解決に積極的に取り組まなければならない。この授業では、履修者一人一人にテーマを考えてもらい、全員でのディスカッションやグループワークを経て、将来の展望について小論文をまとめ、プレゼンテーションを行うことを目的とする。コミュニケーションやプレゼンテーションの能力を養い、将来のキャリアパスに役立てることが重要だというスタンスで、参加型自由形式の授業を行う。</p>							
[Course objectives]							
<p>地球環境とエネルギーというテーマに関して文献や資料の調査を行い、自らの課題を設定できる。グループで議論をする中で積極的に発言し、コミュニケーション能力を身につける。さらに、絞られたテーマについて深く考察して問題解決力を養い、最終到達目標は、小論文を作成してその内容をプレゼンテーションすることとする。</p>							
[Course schedule and contents]							
<p>1．地球環境とエネルギーの問題点を知る（第1回～第3回）</p> <p>深刻だと考えられている地球環境問題、あるいはそのエネルギー問題との関連について、文献を調査し資料を揃えて現状把握を図る。また、教員のプレゼンテーションも交えて問題提起も行う。</p> <p>KEY WORD: 9大地球環境問題、2030年の電源構成</p> <p>2．履修者によるテーマ設定（第4回～第7回）</p> <p>履修者一人一人に研究テーマを考えてもらい、ショートプレゼンテーションを行って全員でディスカッションする。</p> <p>KEY WORD: 答えのない問題、未来予測</p> <p>3．地球環境とエネルギー問題の解決策と近未来予測（第8回～第12回）</p>							
<div style="text-align: right;">Continue to 統合科学：閉じた地球で生きる（地球環境とエネルギー）(2)</div>							

統合科学：閉じた地球で生きる（地球環境とエネルギー）(2)

それぞれが選んだテーマについて、さらに調査と考察を加え、グループワークや全体討論を通して、その解決策を見出す。それを基に、近未来に地球環境や社会がどのようなになるのかを予測し、それを小論文にまとめる。

KEY WORD: 人口問題、エネルギーの需要と供給，A I

4．プレゼンテーション（第13回～第14回）

履修者一人一人が、研究結果についてのプレゼンテーション(15~20分)を行い、質疑応答という形でディスカッションを行う。

[Course requirements]

None

[Evaluation methods and policy]

出席や授業中での参加状況(50%)、小論文提出および最終プレゼンテーション(50%)を総合して評価する。

[Textbooks]

Not used

（ Related URL ）

<https://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/connect/resources/limited/all/tougoukagaku01.php>(授業紹介ページ)

[Study outside of class (preparation and review)]

授業内容を復習し，小論文作成やプレゼンテーションの準備の時間を取ること。

[Other information (office hours, etc.)]